



## 里地の送粉サービス保全に関する研究

生物資源科学部 教授 宮永 龍一

私たちの暮らしは「生態系サービス」によって支えられています。「生態系サービス」とは豊かな自然がヒトにもたらす恩恵、自然のめぐみのことです。たとえば水や空気や土など、私たちが当たり前のように使っている自然のめぐみは、ヒトが特別なコストを支払うことなく提供され続けています。この生態系サービスの基盤となるのが生物多様性です。

重要な生態系サービスのひとつに「送粉サービス」があります。野山の植物やヒトが育てる果樹、これらに実りをもたらすサービスの担い手は「送粉昆虫＝花粉媒介昆虫」です。送粉昆虫の多様性が低下すると、野生植物が次の世代を維持できなくなり、さらに多くの生物の多様性が低下したり、作物の不作を通してヒトの経済活動に大きな影響を及ぼすことが予想されます。

私たちの研究室では重要な送粉昆虫である「ハナバチ」に着目し、近年の過疎化などにより大きく環境が変化しつつある里地（中山間地）でハナバチ類の多様性が低下していないかどうかを調査しています。

